2023･2･12 中村寿夫

「ダビデの再度の罪と贖い」

ダビデの生涯

サムエル記第二　24 章 1 節～25 節

はじめに

アブシャロムの謀反も、その死によって収まりました。が、シェバという者がダビデに逆らい、イスラエルはこのシェバに従うようになりました。ダビデの将軍ヨアブは、シェバを追跡しますが、ある女がの知恵でシェバは殺されました。

ペリシテとの戦いは続きましたが、ダビデの勇士たちが戦いを勝利に導きました。

このようなとき、「主の怒りが、イスラエルに向かって燃え上がりました」。ダビデは、サタンにそそのかされ、「民の登録」を行ったのです。しかし、主は、ダビデがはその罪を悔い改めたときに、ダビデに祭壇を築くことをお命じになりました。そこは、やがてソロモンが神殿を築く場所になりました。

１　人口調査の罪。

（１）主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がった（1）。

主の怒りは、サタンに誘惑されたダビデが人口登録をしたことに対して燃え上がりました。人口登録をすること自体は、罪ではありませんが、なぜここでダビデは登録をしようとしたのでしょう。

このことに対して、将軍ヨアブは反対しました。神は、民を百倍にすることも出来るし、今も民は王のものであるのに、なぜこのようなことをして、イスラエルに対して罪過あるものとなるのですか（Ⅰ歴代 21：3）。

ダビデは、神よりも自分の力を頼りにしようとしていたのではないでしょうか。

「ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、主を誇ろう」（詩篇 20:7）「王は軍勢の多いことによっては救われない。勇者は力の強いことによっては救い出されない。軍馬も勝利の頼みにはならない。その大きな力も救いにならない」（詩篇 33:16-17）と自ら語っていたにもかかわらず、ダビデは「いくさ車、馬、軍勢の多いこと」を誇り、それに頼ろうとしていたのです。

この人口調査の目的が、兵力調査であったことが９節から分かります。

適用：私たちもまた、本当に頼るべきものは神様なのに、自分の力に頼ろうとすることはありませんか。銀行に預けたお金をいつも数えてそれを頼りとしたり。それも決してあてになりません。金融不安が起これば、一気にそれなくなることもあることを経験しています。

（２）ダビデの悔い改めと罰（10-17）。

登録が終わると、ダビデは良心のとがめを感じました。そして、主に告白したのです。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。私はほんとうに愚かなことをしました」（10）。

神は、預言者ガドを通じてダビデの罪に対して、三つの災いからの選択を求めました。ダビデは「主の手に陥ることにしましょう。主はあわれみ深いからです」と答えました。罪を犯しても、なお神への信頼があることを示しています。

神の怒りが民に下り、７万人が死にました。それを見たダビデは「罪を犯したのはこの私です。私が悪いことをしたのです。この羊の群がいったい何をしたというのでしょう。どうか、あなたの御手を、私と私の一家に下してください」と祈りました。

適用：大切なのは、罪に気づくことです。ダビデは、「良心のとがめを感じた」とありますが、神様は、私たちの心に「良心」という、警告を与えてくださっています。良心にとがめを感じたら、直ぐに悔い改めることです。そして、そのときにも「人の手に陥るよりは、神の手に陥ることを」選ぶ信仰を学びたいものです。

２　ダビデ、祭壇を築く（18-25）。

主は預言者ガドを送り、ダビデに「エブス人アラウナの打ち場に上って行って、主のために祭壇を築くように」と命じました。

（１）アラウナ（オルナン）の打ち場を買う。

アラウナはダビデに、自分の土地の寄付を申し出たのですが、ダビデは「いいえ、私はどうしても、代金を払って、あなたから買いたいのです」と言って、その土地を買い取りました。

（２）主のために祭壇を築く。

それは「神罰が民に及ばないようにするため」でした（21）。果たして、ダビデが祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげると、「主が、この国の祈りに心を動かされたので、神罰は、イスラエルに及ばないようになった」のです（25）。

（３）場所に神の宮が建つ。

後に、ソロモンがダビデを継いで王になったとき、この場所に神殿を築きました。ですから、ダビデは、罪を犯しましたが、そのことから、神殿の場所が選定せれたという、神様の不思議な導きがあったのです。

３　キリストの贖い（この出来事の適用）。

　ダビデが祭壇を築いたこのことから、私たちは、罪の赦しについての大切な真理を教えられます。

（１）買い取り。

　私たちの罪は、キリストによって「贖われる」と言いますが、この「贖う」ということばは、「代償を払って罪の償いをする」という意味です。ダビデがアラウナから金を払って土地を買ったように、キリストは自らの死という代価を払って、私たちを罪から贖い出してくださったのです。

（２）神罰が民に及ばないように。

　ダビデが祭壇を築いたのは、そこで全焼のいけにえと和解のいけにえをささげるためでしたが、それによって、神罰が民に及ばなくなりました。 まさに、イエス・キリストの十字架といういけにえによって、神罰が私たちに及ばないようになったのです。

結論

　ダビデは、神に罪を犯しました。しかし、祭壇を築き、いけにえをささげることによって、神の怒りがとどめられ、神罰が民に及ばないようになりました。
　ダビデの時代は、まだ、動物のいけにえによる仮の贖いに時代でしたが、イエス様がお出でになりご自身をささげて、完全な罪の贖いを成し遂げてくださったのです。

　聖書が私たちに求めているのは、

１　神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
２　自分が罪を犯していることを認めること。
３　イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
４　イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

　イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。
　「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、な

だめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」
　「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」
　「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り
　父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。
　私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。
　しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。
　あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。
　私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。
　あなたは、私をあなたの子として受け入れてくさり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。
　今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。
　イエス・キリストの御名によってお祈りします。
アーメン。